

後援会ニュース「しおかぜ」は街づくりのコミュニティ紙として皆さんの暖かいご支援をお願いします。ご意見をお聞かせください。



しおかぜ

日本共産党浦安市東部後援会
News

第35号

2010年 4月1日
編集責任者 元木計文

047-355-8526
minamotonton@jcom.home.ne.jp

部内資料

気になるキーワード「市民参加と協働」 だれのため、何のため？

三月議会を終えて

安易で打算的ではないですか？

市議会議員 元木 美奈子

三月市議会でおこなわれた松崎市長の新年度施政方針演説で、私が気になったキーワードがある、「市民参加と協働」である。

団塊世代は
重要な人材

市長は施政方針で「戦後ベビーブームの団塊世代が地域社会の重要な人材として今後の活躍が期待される」と述べ、『うらやす市民大学』の予想を超える意識の高揚とエネルギーは、まさに本市における『地域協働社会』の実現を強烈に予感させるもの』だと言った。

市民大学開校の
ねらいは何？

この発言を裏付けているのが「うらやす市民大学」開校目的について答えた次の議会答弁（平成21年10月総務常任委員会）だ。「社会貢

献、協働をキーワードにして、そのために必要な知識、技術を学んで、あるいはその仲間を広げて、市民自らが地域貢献活動とサービス、協働の担い手になっていただく、なっていたいた以降、その知識を生かして地域に還流していく、そういうことまで目指しております。」

減らした職員の
穴埋めでは？

しかし、市当局のねらいどおりになるだろうか？
懸命に働きつづけ、退職後は余生をゆつたりと過ごしたいと願う市民も少なくない、心身ともに疲れ果てて退職した人もいる、残りの人生を地域貢献活動にささげる市民がどれほど生まれるのか、私は、安易で打算的な発想ではないかと考えている。
私にはこうした狙いの裏にある市長の政治姿勢を看過できない。松崎市長はこれまで「船を漕ぐのは民間、行

「憲法九条を守れ」の 輪をひろげよう！

2005年6月、市内の6氏のよびかけで「浦安・九条の会」が結成されてから、5年を迎えようとしています。この会には日本国



憲法第9条を大事に守りたいと願う気持ちがあればだれでも入会できます。
入会申し込みは
矢野354-6059まで

写真は1月・3月に開催した憲法学習の連続講座の様子です。



政は舵取り」を掲げ、「官から民へ」路線を邁進してきた。そして、国の大号令のもと、職員の給与引き下げ、定数削減に余念がない。これらは政府がすすめる行政改革の自治体版である。

しかし、財政削減を第一義的目標にかかげる構造改革路線は、国と地方自治体の公的責任放棄につながりかねず、そのゆがみは住人に不利益をもたらすことになりかねない。新年度予算はこうした誠治姿勢で編成されたものだ。

し合い解決する姿勢は、当然、住民主権にもとづく住民自治の視点で考えた場合、その結果としてあるべき姿である。

私（男性）の介護体験

第三回

美浜四丁目 伊那三郎

3. 今抱えている問題点

二〇〇九年八月になってから急激に食べる速度が遅くなり、錠剤の薬を飲むのにも数時間もかかるようになってきました。これは、舌を上手に動かせなくなったのが原因です。そこで十月上旬、胃瘻設置の手術をしました。胃瘻にして困った事は、食事や薬を飲む事に関連した事をヘルパーさんに頼めなくなった事です。これらの事が医療行為にあたるという事で、家族と看護師・医師以外にはできないと言う事になっていくからです。痰の吸引も同様なはずですが、なぜかALS等の特別な病気の患者については、誓約書を書くなどして、ヘルパーさんでもできると聞きます。これは、その病気の患者数が多いために政治的な働きかけができたためだと想像されます。

訪問看護師さんは週一回一時間しか頼めていないので、朝、昼、晩、三食共に基本的に私が妻の面倒を見なければならなくなりました。経管栄養の滴下時間だけでも、一時間はかかります。その前後に薬を準備し、

管を通して注入しなければなりませんので、朝食が済めば上手くいつて三時間ほどで、昼食の準備、昼食が済めば四時間ほどで、夕食の準備に



【経管栄養に利用している読書スタンド】

かからざるを得ません。その合間を縫って自分の食事をしますので、最近では、インスタント食品をもっぱら利用せざるを得なくなっています。

唯一、デイサービスの日は、妻の昼食の面倒を見なくて良いので、好きな物を食べられるはずですが、たまった仕事を片付けるのに追われて、駅で買うおにぎりか、やっぱりインスタント食品を口にする事が多くなっています。幸い、私達がこれまで利用してきたデイサービスの施設では、看護師さんが常駐しているので今後も利用可能です。

苦い経験があり、長期のショートステイは利用していません。家では、尿取りパットの交換をベッド上でするのはなく、できるだけ、トイレ

まで行くようにしています。使わない筋肉が急速に無くなっていくように、体の動きも寝たきりでは悪くなっています。まだ症状が今ほど進んでいなかった時、ショートステイの後で動きが急に悪くなる事が度々あり、その後、家でのリハビリに苦労しました。施設ではリハビリや、リハビリを兼ねて体を動かすようにお願いするのですが、きにくい状況です。施設に見学に行きましたが、寝かせたまま放置されているという感じでした。もちろん、家内も行くのを基本的に嫌がっている、私の負担を考えて、少々施設を利用しているのが察せられます。



(次号に続く)



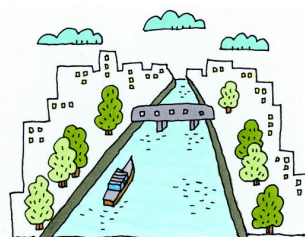
私の故郷自慢

No. 3

◇深川・私の故郷は水の記憶◇

隅田川に架かる永代橋を渡ると、東京深川下町、私の育ち、育てられた場所である。地下鉄東西線の「門前仲町駅」、成田不動尊と深川八幡を中心に出てくる。毎月28日は縁日で賑わうお不動様、かたや八幡様は三大祭のひとつに数えられ、特に四年に一度、神輿といなせな担ぎ手が「八月だよ、全員集合」とばかりに集結する。ワッショイ、ワッショイとくるたびに、道路際にバケツを用意し、柄杓で水を勢いよくかけまくった。美空ひばりの歌「そーれそーれお祭りだー」。

「木場駅」、江戸より続いた材木商も、自由化の波に打ち寄せられて、京葉線の新木場へ移転。中学の通学路途中、左右にあった貯木場、太い丸太が浮かび、水面下にめだかの群れがみられた景色は、今、緑豊かな広い憩いの公園となっている。



「東陽町駅」、地上に出ると、大きな木が見える。東陽公園、地続きに東陽小学校。焼け残ったコの字型の三階建て校舎。

戦後の物が無い時代、住む場所として校舎も使われた。お互い様のくらし。幼い心にも淡い恋心や憧れが、ゆっくり流れていた時間。陽水の「少年時代」と重ねてみる。「お前よー！シルバーだからって、甘えるな、ばやばやすんじゃねえー」と、どつかれそうな、早く強い口調が飛んできそう。このしゃべりこそ、日本の誇る文化、下町情緒、私の自慢だった。

<増田>

お花見のご案内



■日時 4月4日(日) 午前11時集合

■場所 浦安市美浜公園 ※雨天の場合は中止

■参加費 500円 カンパ、差し入れ大歓迎です。

※当日、準備(買出し等)を手伝って頂ける方は10時にお集まり下さい。

■主催 日本共産党浦安市後援会